

報道関係者 各位

奥能登国際芸術祭2020 最涯の芸術祭、美術の最先端。

奥能登フラム塾特別版 さいはての「南極会談」開催のお知らせ

開催日：2019年12月7日(土)

石川県珠洲市を舞台に2020年秋に開催される「奥能登国際芸術祭2020」に向け、2017年の芸術祭を機に、かつての乗船客の待合所が生まれ変わった“さいはてのキャバレー”にて、ロシアの美術家アレクサンドル・ポノマリョフ氏と、ロシア美術の専門家 鴻野わか菜氏をゲストに、「さいはての『南極会談』」を開催します。

2017年に世界初となる極寒の大地におけるアートプロジェクト「南極ビエンナーレ」を開催した、コミッショナーのアレクサンドル・ポノマリョフ氏と、「南極ビエンナーレ」に参加し、現代ロシア作家のプロジェクトでコーディネーターを務める鴻野わか菜氏による「南極会談」。奥能登国際芸術祭総合ディレクターの北川フラムが加わり、極地の魅力を知る3人による、“さいはての地”からふたつの極が響きあう世界をお楽しみいただける内容となっております。つきましては、貴媒体への掲載や取材をご検討いただければ幸いです。



写真 アリョーナ・イワノワ=ヨハンソン(古典元素の探求者たち)

【開催概要】

日 時：2019年12月7日(土) 17:00～19:00 (開場16:30～)
会 場：さいはてのキャバレー (〒927-1214 石川県珠洲市飯田町1-1-13)
出 演 者：アレクサンドル・ポノマリョフ (アーティスト)
鴻野わか菜 (早稲田大学教授)
北川フラム (アートディレクター)
料 金：2,500円 ※料理、1ドリンク代込み
料理協力：日野貴明

【申込方法 (申込期日：12月5日)】

- メールでのお申込み
氏名、住所、電話番号を記載のうえ、info@oku-noto.jpまでメールを送信してください。
- 窓口・電話でのお申込み
奥能登国際芸術祭実行委員会事務局 TEL:0768-82-7720 (平日8:30～17:00)

*奥能登フラム塾とは・・・

毎回多才なゲストを招きし、北川フラム総合ディレクターと共に珠洲の様々な分野を掘り下げ魅力を探ります。

<参考>第5回「奥能登フラム塾」

日 時：2019年10月1日(火) 開催
テーマ：珪藻土 (参加者24名)

ご取材・広報についてのお問い合わせ

奥能登国際芸術祭実行委員会事務局 担当：灰庭、小菅
〒927-1214 石川県珠洲市飯田町13部120番地1 (珠洲市奥能登国際芸術祭推進室内)
TEL：0768-82-7720 FAX：0768-82-7727 E-mail：press@oku-noto.jp
公式WEBサイト oku-noto.jp
Facebook https://www.facebook.com/okunotojp
Twitter https://twitter.com/okunotojp
instagram https://www.instagram.com/okunotojp



「さいはて」と「さかさま」、2つの極が開く世界。

奥能登
フラム塾
特別版

「さいはての
南極会談」



2019年12月7日[土] 17時～19時



写真:アロー・チー・クレーン/アロー・チー・クレーン/アロー・チー・クレーン/アロー・チー・クレーン/アロー・チー・クレーン/アロー・チー・クレーン/アロー・チー・クレーン/アロー・チー・クレーン/アロー・チー・クレーン/アロー・チー・クレーン

アレクサンドル・ポノマリョフ(アーティスト)
鴻野わか菜(早稲田大学教授)
北川フラム(アートディレクター)

料金 2,500円 ※料理、ワンドリンク代込み

会場 **さいはてのキャバレー** (〒927-1214 石川県珠洲市飯田町1-1-13)

申込 ○メールで申込 | 氏名、住所、電話番号を記載の上、info@oku-noto.jpまでメールを送信してください。

○窓口・電話で申込 | 奥能登国際芸術祭実行委員会事務局 TEL:0768-82-7720 (平日8:30～17:00)

※12/5までにお申込ください。

奥能登 フラム塾 特別版

今回の奥能登フラム塾は、ロシアの美術家アレクサンドル・ポノマリョフさんと、ロシア美術の専門家の鴻野わか菜さんとをゲストに迎えます。2017年、「南極ビエンナーレ開催」というニュースがにわかには巷をにぎわせました。極寒の地、どの国にも属さない大地におけるアートプロジェクトへの挑戦は、多くの者に夢と希望を与えてくれました。ポノマリョフさんは、そのコミッショナーを務め、現在も第2回南極ビエンナーレの準備を進めています。ポノマリョフさんは、海、冒険、そして越境の末にたどり着いた「No Man's Land」でのアートプロジェクトを、「さかさまのビエンナーレ」と呼びます。そして、ここ珠洲は「さいはての芸術祭」。

極地の魅力を知る2人に、北極と南極を目指した船「フラム号」から名前を授かった北川フラムが加わり、「さいはて」と「さかさま」という場の力と、その親和性を解き明かしていきます。

アクセス

- 飛行機の場合 | 羽田空港～のと里山空港(約1時間)
→予約制のふるさとタクシー(乗合)、特急バス、またはレンタカーで約40分
- 新幹線の場合 | 金沢駅から特急バスで3時間、またはレンタカーで2時間半



主催・お問い合わせ

奥能登国際芸術祭実行委員会

〒927-1214 石川県珠洲市飯田町13-120-1

TEL : 0768-82-7720 MAIL : info@oku-noto.jp

(イベント当日のお問い合わせ : 090-3293-9019)

アレクサンドル・ポノマリョフ (Alexander Ponomarev)

1957年、ドニエプロベトログスク(旧ソ連)生まれ/モスクワ在住。1973年



にオリョール美術学校を卒業した後、海への憧れを募らせ、オデッサ工科海洋大学(現:国立オデッサ海洋アカデミー)に入学。1979年から数年間、航海士として7つの海を放し、1982年に美術界に戻り、現在に至るまで、海、船をテーマとする作品を展開。ヴェネツィア・ビエンナーレ、ヴェネツィア建築ビエンナーレでも多数プロジェクトを発表。2017年にはコミッショナーとして第1回南極ビエンナーレを実施し、現在、第2回南極ビエンナーレを準備中。「瀬戸内国際芸術祭2016」、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018」参加作家。

鴻野わか菜

1973年、広島生まれ。早稲田大学教育・総合科学学術院教授。東京外国語大学、東京大学大学院を経て、国立ロシア人文大学大学院修了(Ph.D)。専門はロシア文学・美術・文化。訳書にレオニート・チシコフ『かぜをひいたおつきさま』(徳間書店)、イリヤ・カバコフ『プロジェクト宮殿』(共訳、国書刊行会)、共著書に『幻のロシア絵本 1920-30年代』(淡交社)、『イリヤ・カバコフ世界 図鑑——絵本と原画』(企画・監修:神奈川県立近代美術館)、『都市と芸術のロシア——ペテルブルク、モスクワ、オデッサ巡遊』(水声社)など。ポノマリョフらと共に第1回南極ビエンナーレに参加。「大地の芸術祭2018」の「南極ビエンナーレ フラム号2」など、現代ロシア作家のプロジェクトでコーディネーターを務める。



北川フラム

1946年/新潟県生まれ。東京藝術大学美術学部卒業。主なプロデューサーとして、「アントニオ・ガウディ展」、「アパルトヘイト否!国際美術展」、「ファーレ立川アートプロジェクト」等。「奥能登国際芸術祭」(2017~)のほか、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(2000~)、「瀬戸内国際芸術祭」(2010~)、「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス」(2014~)、「北アルプス国際芸術祭」(2017~)など、日本各地の地域型芸術祭の総合ディレクターを務める。紫綬褒賞(2016)、朝日賞(2017)、文化功労者(2018)受賞。



助成

2019年度文化庁

文化芸術創造拠点形成事業

